

錨をあげて

(社) 埼玉県放射線技師会
会長 小川 清



福島原発事故に起因する東京電力管内電力不足による計画停電は一部を除き、会員の勤務する病院にも容赦なく襲い、結果的に停電をしなくても、業務シフトの変更がきかない状態となり、病院経営、運営に大きな影響を与えていると思う。我々の扱う放射線機器およびサーバー・システムは電源の頻繁な切断・投入を好まない。県内でも、1日に2回以上電源を切断・投入するなら保証できないとベンダー側から通知されたことや切断後、立ち上がらないシステムがあったと聞く。

また計画停電に絡む節電や物流の停滞は、様々なイベントを中止に追い込む。本会でも、読影セミナー等3月のイベントが中止され、全国的にもJRC2011や日本医学会総会が中止となってしまった。加えて研究会、講演会が次々と中止となり、祭りや結婚式、入学式も延期されたと聞く。被災地が苦しんでいるのに自分たちだけが……。北海道を除く東日本は自粛モードに陥ってしまった。

その中で、3月29日に開催したサッカー・チャリティ・マッチは、カズのゴールに熱狂し、4万人の観衆のみならず久々に、心

から楽しんだ方も多と思う。4月3日、センバツ高校野球は阪神甲子園球場にて決勝戦。球児は、力いっぱい白球を追いかけている。阪神大震災で被災された方は当初、被災されなかった方が普段とおりの生活を行なっているのをみて憤りを感じたそう。しかしその後、普段通りの生活が出来る人は、普段通りの生活をする事が大切な事であると再認識したそうです。毎年、同じ時期に、同じ場所で、同じような姿であることのありがたさを、もう一度思い出そう。

港は、疲れて帰ってきた我々をやさしく迎えてくれる場所であり、鋭気を養う場所であり、普段の自分を取り戻す日常の場所だ。東日本地震は、大型漁船が停泊するような大きな港も、釣り船がとまっている小さな港も津波により、木端微塵に破壊した。まず、壊れた岸壁を修復することが第一だが、完全な修復を待たずして、多少の不安を覚えつつも出漁していくことも大切だと思う。船は泊まっているものではなく、錨をあげて、海洋に出て走るものだ。

本会も、年間計画に則り、総会にて審議いただき、その結果に基づき事業をすすめていく予定です。今年度もご支援、ご協力ほどよろしく申し上げます。